

# CHAPTER 1 文と文構成

---

## SECTION 1 文の要素の形態・働き・機能

G-001 文の要素とその<形態>

G-002 文の要素とその<働き>

G-003 文の要素とその<機能>

## SECTION 2 文構成と語・句・節

G-004 文

G-005 語

G-006 句

G-007 節

## SECTION 3 文構成と文の要素

### A 文の基本要素

G-008 基本要素

G-009 動詞

G-010 主語

G-011 目的語

G-012 補語

### B 文の修飾要素

G-013 修飾要素

G-014 形容詞的修飾要素

G-015 副詞的修飾要素

### C 文の要素と文構成

G-016 主語・述語動詞・後続要素

## SECTION 4 文構成と品詞

### A 品詞と文の要素

G-017 品詞

G-018 品詞と内容語・機能語

### B 語・句・節と品詞

G-019 前置詞と品詞

G-020 準動詞と品詞

G-021 疑問詞と品詞

G-022 接続詞と品詞

G-023 関係詞と品詞

### C 名詞と語・句・節

G-024 名詞

G-025 名詞相当語句

G-026 名詞と文の要素

G+ 001 [名詞とその用法]

G+ 002 [代名詞とその用法]

### D 形容詞と語・句・節

G-027 形容詞

G-028 形容詞相当語句

G-029 形容詞と文の要素

G+ 003 [形容詞とその用法]

### E 副詞と語・句・節

G-030 副詞

G-031 副詞相当語句

G-032 副詞と文の要素

G+ 004 [副詞とその用法]

## SECTION 1

# 文の要素の形態・働き・機能

- ◆ 文は、文を構成している要素を理解することによってはじめて精確に把握することができます。
- ◆ 文を構成している要素は、<形態><機能><働き>の3つの観点から捉えることができます。

### G-001 文の要素とその <形態>

a) まず、文の要素を<形態>の面から見ると、文は<語・句・節>という単位に分類することができます。文は<語・句・節>の集合体として成立しています。

[↑ 目次に戻る](#)

### G-002 文の要素とその <働き>

a) 次に、これらの語・句・節を<働き>の面から見ると、主語や目的語などの<文の基本要素>として、また名詞や動詞を修飾したりする<文の修飾要素>として働いています。

[↑ 目次に戻る](#)

### G-003 文の要素とその <機能>

a) 最後に、語・句・節を<機能>の面から見ると、それぞれ<品詞>の機能を有しており、その品詞に基づいてはじめて、語・句・節は文の基本要素・修飾要素として働くことができます。

#### NOTE

以上の3つの観点から文の要素を精確に微分かつ積分できれば、文は十全に把握できたこととなります。したがって、<文法>とはこの3つの観点に基づいた文を構成する規則の全体のことであり、その学習とはその規則の習得に他なりません。

[↑ 目次に戻る](#)

## SECTION 2

# 文構成と語・句・節

◆ 文を構成する要素は、その<形態>の面から見ると、<語・句・節・文>に分けることができます。

### G-004 文

a) <文(Sentence)>とは、<終止符/ピリオド(Period)>で終わるまでの語群のことを言います。

#### NOTE

文には様々な定義があり、一筋縄ではいきません。ここでは形式的な定義に留めておきますが、それにもかかわらずこの定義は極めて重要で、ピリオドが打てるかどうかの判断が、即、文法理解の根幹に関わっていると受け止めておいてください。なお、勿論、<疑問符/クエスション・マーク(question mark) = ?>、<感嘆符/エクスクラメーション・マーク(exclamation mark) = !>も含めてください。

c) 語は集まって句・節となり、<語・句・節>が集まって<文>となります。

#### NOTE

語・句・節の定義は、文法理解の根底ですから、習熟しなければなりません。

[↑ 目次に戻る](#)

### G-005 語

a) <語(Word)>とは、<形態>の上で、最小限の意味のまとまりを持った要素のことを言います。

c) そして、語は、<働き>から見ると、<文の基本要素>ないしは<文の修飾要素>になります。

b) さらに、語は、<機能>から見ると、<品詞>として働きます。

[↑ 目次に戻る](#)

## G-006 句

- a) <句(Phrase)>とは、文中で2語以上の語が集まり、その中に<主語+動詞>の構造を持たない要素で、<1つの品詞の働き>をしている語群のことを言います。
- b) 句には、<形態>の上では、<前置詞句・不定詞句・動名詞句・分詞句>などがあります。
- d) そして、句は、<働き>から見ると、<文の基本要素>ないしは<文の修飾要素>になります。
- c) さらに、句は、<機能>から見ると、文中で<名詞句・形容詞句・副詞句>になります。

### NOTE

「2語以上の語が集まる」とは、<群(Group)>であることを意味します。

[↑ 目次に戻る](#)

## G-007 節

- a) <節(Clause)>とは、文中で2語以上の語が集まり、その中に<主語+動詞>の構造を持つ要素で、<1つの品詞の働き>をしている語群のことを言います。
- b) 節には、<形態>の上では、<疑問詞節・接続詞節・関係詞節>などがあります。
- d) そして、節は、<働き>から見ると、<文の基本要素>ないしは<文の修飾要素>になります。
- c) さらに、節は、<機能>から見ると、文中で<名詞節・形容詞節・副詞節>になります。

### NOTE

句・節の定義で最も重要なことは、"意味のカタマリ"などという曖昧な定義ではなくて、<品詞>として働いているということに留意してください。

[↑ 目次に戻る](#)

## SECTION 3

# 文構成と文の要素

◆文を構成する要素は、その<働き>の面から見ると、<文の基本要素>と<文の修飾要素>に分けることができます。

## A 文の基本要素

### G-008 基本要素

a) それなくしては文が成立しない要素、つまりその要素が欠けているとピリオドを打つことができない要素を、<文の基本要素>と言います。

[↑ 目次に戻る](#)

### G-009 動詞

a) <動詞(Verb = V)>とは、動作・行為・状態を表す要素で、<…する><…である>で示される要素のことです。

b) 英語は動詞が文構成を支配する働きを持っており、用いられている動詞の用法つまり動詞の<語法(Usage)>によって<文の基本要素>は決まってしまう。

c) 動詞の用法に基づいて文の基本要素の選択の原則を示すと同時にその配置の順序つまり<語順(Word Order)>を指定する文の類型を、<文型(Sentence Pattern)>と言います。

#### NOTE

英語は欧米の言語の中で、最も文法が痩せ衰えた言語で、名詞の格変化も人称代名詞以外には存在せず、しかもその人称代名詞の格変化も、たとえばドイツ語には4つの格、ロシア語に至っては6つの格があることに較べると、3つの格しか存在しません。さらにまた動詞も人称に基づく変化だけを取り出してみても、わずかに所謂<"三単現"のs>しか残っていない言語です。その結果、英語は語順に過剰な負担が掛かった言語で、極端に言うと語順で意味が決まる言語になっています。文法が痩せ細ったことによって、入門としては学びやすくとも、動詞を始めとする様々な語の用法と慣用表現および成句表現が大きな地位を占め、一步踏み出すと、なか

なかにして捉えどころがない言語だと言えます。それがゆえに動詞の語法の学習が極めて重要になってくることを、まずは自覚しておいてください。

d) 文型によって決定される文の基本要素は、<主語・目的語・補語>の3つです。

e) したがって、<動詞・主語・目的語・補語>が<文の基本要素>になります。

[↑ 目次に戻る](#)

## G-010 主語

a) <主語(Subject = S)>とは、動作・行為・状態の<主体(subject) = 動作主・担い手(agent)>を表す要素で、<…は> <…が>で示される要素のことです。

b) 主語になりうるのは、<名詞>です。

[↑ 目次に戻る](#)

## G-011 目的語

a) <目的語(Object = O)>とは、動作・行為を受けるもの、つまり動作・行為の<対象(object) = 客体>を表す要素であり、<…を> <…に>で示される要素のことです。

### NOTE

<客語>という呼称もあります。

b) 目的語になりうるのは、<名詞>です。

[↑ 目次に戻る](#)

## G-012 補語

a) <補語(Complement)>とは、主語や目的語の性質・状態を説明する要素です。

b) <C>と表記されます。

### NOTE

主語の性質・状態を説明する補語を<主格補語(Subject Complement)>、目的語の性質・状態を説明する補語を<目的格補語(Object Complement)>と言います。

## B 文の修飾要素

---

### G-013 修飾要素

---

a) それがなくても文が成立する要素，つまりその要素が欠けていてもピリオドを打つことができる要素を，<文の修飾要素>と言います。

#### NOTE

<修飾要素(Modifier)>は，その頭文字を取って，"M"と表記することもあります，ここでは用いません。

b) したがって，文の修飾要素とは，文から文の基本要素を除いた残りの要素のことになります。

#### NOTE

文の修飾要素はそれなくしても文が成立する要素ですが，意味の上では文の基本要素よりはるかに重要な内容を担っていることがあります。<基本要素><修飾要素>という呼称は，あくまでも文構成の上でのことであり，意味の軽重ではないことに注意してください。

### G-014 形容詞的修飾要素

---

a) 名詞を修飾する要素です。

### G-015 副詞的修飾要素

---

a) 動詞・形容詞・副詞・文全体を修飾する要素です。

## C文の要素と文構成

### G-016 主語・述語動詞・後続要素

a) 文の要素は、その構成の面から見ると、**<主語(S)><述語動詞(V)><後続要素(X)>**に分けることができます。

#### NOTE

動詞の後続要素は様々な要素が置かれるので、今後**<X>**と記述することにします。

[ 修 / S / 修 / V / 修 / O/C / 修 ].  
⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒

b) 文はいかなる文も、原則として、**<主語+述語動詞+後続要素(SVX)>**の語順になり、**<SはVする><SはVである>**の意味になります。

c) 主語は、通例、文頭に置かれます。ただし、疑問文になれば、助動詞・be動詞に先行されることにもなりますし、また主語の前に修飾要素が置かれていることもあります。

d) 動詞は、通例、主語に後続し、**<時制(現在/過去/未来)><相(進行相/完了相)><法(直説法/仮定法/命令法)><態(能動態/受動態)>**を持つことで、**<述語動詞>**になります。

e) 動詞の後続要素には、用いられている動詞が指定する要素が目的語や補語であれば、それらの要素が置かれ、さらにその前後に修飾要素が置かれることになります。さらに何も指定していなければ、修飾要素のみが置かれていることになります。

f) 以上から、文の要素の**<働き>**によって決定される文の構成は、必ず上のような形になります。

#### NOTE

この英語の文構成を是非とも憶えておいてください。この文構成を完全に理解できれば、文法学習は終了となります。

#### NOTE

そして、ここで用いられている()の代わりにスラッシュ(/)を打ってみてください。これが世に言う"速読の方法"となります。ただし、スラッシュで文を切り、そしてやがてはそれも行わずに、英文を前から読んでいくためにどうしても避けることができないのが、文法の学習です。速読の必要条件は精読であり、そして精読の第一歩は文法学習にあると心得てください。

[↑ 目次に戻る](#)

## SECTION 4

# 文構成と品詞

- ◆文を構成する要素は、その<機能>の面から見ると、<品詞>に分けることができます。
- ◆文を構成する品詞は、<動詞><名詞><形容詞><副詞>の4つの品詞になります。

## A 品詞と文の要素

### G-017 品詞

a) 品詞(Parts of Speech)とは、語・句・節が文の要素としてどのように振る舞い、どのように文を構成するか、その機能に基づいて分類したもののことを言います。

#### NOTE

品詞は伝統的には<名詞(Noun)> <代名詞(Pronoun)><形容詞(Adjective)><動詞(Verb)><副詞(Adverb)><前置詞(Preposition)><接続詞(Conjunction)><間投詞(Interjection)>の8つの品詞に分けますが、この8つに分けること自体には文構成を理解する上ではあまり意味がありません。参考程度に考えておけば十分です。

[↑ 目次に戻る](#)

### G-018 品詞と内容語・機能語

a) 文の基本要素になるものは、品詞から見れば、<動詞><名詞(主語/目的語/補語)><形容詞(補語)>、文の修飾要素になるものは<形容詞><副詞>です。

b) したがって、文を構成する品詞に限れば、文中の品詞は<動詞・名詞・形容詞・副詞>の4品詞に収斂します。このような語を<内容語(Content Word)>と言います。

#### NOTE

品詞が動詞・名詞・形容詞・副詞でも、たとえば冠詞は伝統的な分類では形容詞になりますが、通例、内容語には含めないように、すべてが内容語というわけではありません。したがって、内容語とは<機能だけを果たしている語ではない表現>のことだと捉えてください。

c) 他方、<前置詞><接続詞>などの品詞は、文中においてそれ自身単独で文の要素にはならず、<名詞・形容詞・副詞の働きをする句・節>を形成する機能を担っています。このような語を、内容語に対して、<機能語(Function Word)>と言います。

#### NOTE

冠詞・代名詞・関係詞・助動詞さらにbe動詞も機能語に含めます。

d) したがって、どのような語・句・節がどのような品詞の機能を果たすかを理解することが極めて重要になります。

[↑ 目次に戻る](#)

## B 語・句・節と品詞

### G-019 前置詞と品詞

- a) 前置詞(Preposition)は、後続に必ず名詞が置かれ、<前置詞+名詞>の語群を形成します。
- b) この語群には<主語+述語動詞>が含まれていないので、前置詞は、<形態>の上では、<前置詞句>を導きます。
- c) 前置詞句は、<機能>の上では、文中で<形容詞句>もしくは<副詞句>になります。

[↑ 目次に戻る](#)

### G-020 準動詞と品詞

- a) <不定詞(Infinitive)><動名詞(Gerund)><分詞(Participle)>を<準動詞(Verbal)>と言います。
- b) 不定詞(to do)は、動詞と名詞(名詞用法の場合)・形容詞(形容詞用法の場合)・副詞(副詞用法の場合)の機能を合わせ持ちます。不定詞は後続要素を伴い、<形態>の上では、<to do +後続要素>の形で<不定詞句>になり、<機能>の上では、その用法に応じて、文中で<名詞句> <形容詞句> <副詞句>になります。
- c) 動名詞(do-ing)は、動詞と名詞の機能を合わせ持ちます。動名詞は後続要素を伴い、<形態>の上では、<do-ing+後続要素>の形で動名詞句になり、<機能>の上では、文中で<名詞句>になります。

d) 分詞(doing [現在分詞] / done [過去分詞])は、動詞と形容詞の機能を合わせ持ち、<機能>の上では、語として<形容詞>になります。さらに、後続要素を伴うと、<形態>の上では、<doing / done+後続要素>の形で<分詞句>になり、<機能>の上では、文中で<形容詞句>になります。

[↑ 目次に戻る](#)

## G-021 疑問詞と品詞

- a) <疑問詞(Interrogative)>は、<疑問詞...V...>の語群を形成します。
- b) この語群には<主語+述語動詞>が含まれているので、疑問詞は、<形態>の上では、<疑問詞節>を導きます。
- c) 疑問詞節は、<機能>の上では、文中で<名詞節>になります。

[↑ 目次に戻る](#)

## G-022 接続詞と品詞

- a) <接続詞(Conjunction)>は、and / but / or などといった等位接続詞とthat やwhen といった従属接続詞に分けることができます。
- b) この中で、従属接続詞は<接続詞SVX>の語群を形成します。
- c) この語群には<主語+述語動詞>が含まれているので、従属接続詞は、<形態>の上では、<接続詞節>を導きます。
- d) 接続詞節は、<機能>の上では、文中で<名詞節>もしくは<副詞節>になります。

[↑ 目次に戻る](#)

## G-023 関係詞と品詞

- a) <関係詞(Relative)>は、先行する名詞(先行詞)を修飾し、<関係詞(S)V(X)>の語群を形成します。
- b) この語群には<主語+述語動詞>が含まれているので、関係詞は、<形態>の上では、<関係詞節>を導きます。

c) 関係詞節は、<機能>の上では、文中で名詞(先行詞)を修飾するので<形容詞節>になりますが、先行詞を含む関係詞に導かれた節は<名詞節>になります。

[↑ 目次に戻る](#)

## C 名詞と語・句・節

### G-024 名詞

a) <もの> <こと>を表す要素を、<名詞(Noun)>と言います。

b) したがって、日本語文法でいうところの<体言>は、英語では原則としてすべて名詞です。

#### NOTE

日本語の「…するもの」「…すること」や所謂"準体助詞"の「の」で終わる表現もすべて名詞です。よって、「昨日、コンビニで彼に逢った」は文ですが、形式名詞の「こと」で終わる「昨日、コンビニで彼に逢ったこと」全体は名詞です。

[↑ 目次に戻る](#)

### G-025 名詞相当語句

a) 名詞として機能する<語・句・節>は、<形態>の上では、以下のようになります。

#### NOTE

これらをまとめて指し示す場合には、<名詞相当語句>と呼ぶことにします。

#### NOTE

なお、③のthat節 / whether・if節は副詞節の場合もあることに留意してください。(→G-099)

- ① 語 — 名詞・代名詞
- ② 句 — 不定詞句 / 動名詞句 / 疑問詞+to do に導かれる句
- ③ 節 — that節 / whether・if節 / 疑問詞節 / 先行詞を含んだ関係詞節

[↑ 目次に戻る](#)

a) 名詞は、<働き>の上では、文中で<主語・目的語・補語・前置詞の目的語>のいずれかの要素になります。

b) したがって、名詞は、<機能>の上では、語としての名詞ばかりではなく、名詞句・名詞節も、前置詞の目的語になっている場合を除き、原則として、<文の基本要素>になります。

#### NOTE

すべての名詞相当語句が自由に<主語・目的語・補語・前置詞の目的語>になることができるわけではありません。まさにそれを正確に理解するために文法があります。

[↑ 目次に戻る](#)

### G+ 001 [名詞とその用法]

a) <名詞>に関して、確認すべき知識をまとめます。

b) なお、以下に示す名詞の分類およびその名称を完全に覚える必要はまったくありません。それぞれの名詞ごとにその特徴を覚えていけば十分です。

c) その場合、可算か不可算かが重要になりますが、これも99%は日本語で常識を働かせればイメージできます。ごく少数の日本語からは推測できない特殊なものを、<名詞の語法>として覚えていけば、十分です。

#### NOTE

名詞の語法は別途に学習します。(→USAGE-101)

### i) 名詞の種類

\*以下、事例はあくまでもイメージが重要です。

#### ① 可算名詞 — 複数形にすることができ、数えることができる名詞

(1) 普通名詞 (a camera — cameras / lady — ladiesなど)

\*数えることができ、1つのものなら単数形を、複数のものなら複数形を用いる名詞です。

(2) 集合名詞 (a family / an audienceなど)

\*単数形のままで、あるものが複数集まっていることを表す名詞です。

例：The family is happy. (家族は幸せだ)

\*ただし、全体の中の個々のものに焦点を当てる場合は複数形扱いになります。

例：The family are all well. (家族は皆元気だ)

\*さらに、複数の集合を表す場合は複数形になります。

例：Our town has many families. (私たちの町には多くの家族がいる)

## ② 不可算名詞 — 複数形にすることができず、数えることができない名詞

\*本来は不可算名詞である名詞が可算化されて、独自の意味を持つ場合があることには注意が必要です。

例：不可算名詞: paper (紙) / 可算名詞: a paper (新聞・論文)

### (1) 物質名詞 (water / milk / gold / moneyなど)

\*一定の形を持たず、連続しており、何らかの単位や尺度で測らないと数えることができない名詞です。

### (2) 抽象名詞 (beauty / truth / increase / developmentなど)

\*性質・状態・動作・行為などの抽象的な観念を表し、数えることができない名詞です。

### (3) 固有名詞 (Sendai / Einstein / Tokyo Station / The Pacific Oceanなど)

\*特定の唯一の存在や場所を表し、数えることのできない名詞です。複数形や定冠詞を伴うものもあります。

## ii) 名詞と格

\*名詞には、格(Case)があります。格とは名詞が他の語に対して持っている関係を表す語の形のことです。

\*英語は、人称代名詞を除いて、名詞の格変化を捨ててしまった言語です。所有格だけは形が変わります。

① **主格** (…は/が) — 主語および補語の位置に置かれた名詞の形です。

② **目的格** (…を/…に) — 動詞の目的語および前置詞の目的語に置かれた形です。

③ **所有格** (…の) — 他の名詞を修飾し、その所有者を表す形です。

(1) 無生物 — of A (前置詞を用いる)

(2) 生物 — A's / As' (アポストロフィを付ける)

\*無生物でも 's で表される例外：

時間・距離：today's news / a stone's throw

## G+ 002 [代名詞とその用法]

a) 名詞の代わりにする語を<代名詞(Pronoun)>と言います。

### NOTE

代名詞の語法は別途に学習します。(→USAGE-201)

## 代名詞の主要分類

### i) 人称代名詞

I / we / you / he / she / it / they

\*話し手を1人称, 聞き手を2人称, 第三者を3人称と言います。英語では人称代名詞のみが主格・目的格・所有格で形を変えます。

### ii) 所有代名詞

mine / ours / yours / his / hers / its / theirs

\*「所有格+名詞」の代わりにし、「所有しているもの」を指します。(→G-050)

### iii) 再帰代名詞

myself / ourselves / yourself • yourselves / himself / herself / itself / themselves

\*「自分自身」を指す代名詞です。一般形はoneselfとなります。(→G-060)

### iv) 指示代名詞

this • these / that • those

\*特定のもの指します。名詞を修飾する場合は「指示形容詞」と呼ばれます。(→G-070)

### v) 不定代名詞

some / any / all / both / either / neither / each / one / none / other / another

\*不特定の数量や選択を表します。-thing / -one / -body がついた形も含まれます。

## D 形容詞と語・句・節

---

### G-027 形容詞

---

- a) 名詞の性質・状態を説明する要素を、<形容詞(Adjective)>と言います。
- b) したがって、日本語文法でいうところの<連体修飾要素>は、英語では原則としてすべて形容詞です。

#### NOTE

「昨日、逢った男の子」という場合、「昨日、逢った」は「男の子」という名詞を修飾しているので、形容詞です。

[↑ 目次に戻る](#)

### G-028 形容詞相当語句

---

- a) 形容詞として機能する<語・句・節>は、<形態>の上では、以下のようになります。

#### NOTE

これらをまとめて指し示す場合には、<形容詞相当語句>と呼ぶことにします。

#### NOTE

なお、②の<形容詞句>とは、<形態>の上での呼称で、形容詞が他の語句と結びついて句になっている形のことを指しています。

- ① 語 — 形容詞 / 分詞
- ② 句 — 形容詞句 / 前置詞句 / 不定詞句 / 分詞句
- ③ 節 — 関係詞節

[↑ 目次に戻る](#)

a) 形容詞は、<働き>の上では、文中で名詞を修飾するか、補語になるかのいずれかの要素になります。前者のように名詞を直接修飾する用法を<限定用法(Attributive Use)>、後者のように名詞を説明している用法を<叙述用法(Predicative Use)>と言います。

## NOTE

形容詞は、たとえば日本語で「白い」という形容詞が「白い花」というように名詞の前に置かれて名詞を修飾する場合と、「その花は白い」というように述部に置かれて主語である名詞を説明する場合がありますように、英語でも同じように2つの用法があります。

b) 形容詞が<限定用法>で用いられているとき、それが語である場合には、原則として、名詞を前から修飾します。これを<前置修飾>と言います。それに対して、句・節の場合は、原則として、名詞を後ろから修飾します。これを<後置修飾>と言います。

c) 以上から、形容詞は、原則として、語としての形容詞ばかりではなく形容詞句・形容詞節も、限定用法で用いられている場合には<文の修飾要素>になり、叙述用法で用いられている場合には<文の基本要素>になります。

↑ 目次に戻る

## G+ 003 [形容詞とその用法]

a) 形容詞はその意味に基づいて分類する場合、通常は<性状形容詞>と<数量形容詞>に分けます。

## NOTE

数量形容詞の語法はかなり正確に習得する必要があります。(→USAGE-301)

## i) 意味による形容詞の分類

## ① 見解・意見

difficult, important, friendly

## ② 大きさ

big, large, small, tall

## ③ 新旧・性質

old, new, hot, cold

## ④ 形状

round, square, flat

⑤ 色彩

white, black, blue, red

⑥ 出身・原産

Japanese, British, European

⑦ 素材

woolen, metallic, wooden

⑧ 目的・用途

political, educational, running

## ii) 名詞を修飾する形容詞の語順 (OSASCOMP)

[限定詞 + 数量詞 + ① Opinion + ② Size + ③ Age + ④ Shape + ⑤ Colour + ⑥ Origin + ⑦ Material + ⑧ Purpose + 名詞]

? a beautiful big old round red Japanese wooden running shoe

? the two giant old square blue metallic American cars

? my many wonderful tiny new flat purple silk Chinese kites

[↑ 目次に戻る](#)

## E 副詞と語・句・節

### G-030 副詞

a) 動詞・形容詞・他の副詞の性質・状態を説明する要素を、<副詞(Adverb)>と言います。

#### NOTE

なお、副詞が文全体を修飾しているときがあり、これを<文修飾副詞>と言います。(→G-090)

b) したがって、日本語文法でいうところの<連用修飾要素>は、英語では原則としてすべて副詞です。

[↑ 目次に戻る](#)

## G-031 副詞相当語句

a) 副詞として機能する<語・句・節>は、<形態>の上では、以下のようになります。

- ① 語 — 副詞
- ② 句 — 前置詞句 / 不定詞句 / 分詞句
- ③ 節 — 接続詞節 (副詞節)

[↑ 目次に戻る](#)

## G-032 副詞と文の要素

a) 副詞は、<働き>の上では、文中で<動詞・形容詞・他の副詞>のいずれかを修飾する要素になります。

b) したがって、副詞は、<機能>の上では、原則として文の基本要素にはならず、もっぱら<文の修飾要素>になります。

[↑ 目次に戻る](#)

### G+ 004 [副詞とその用法]

#### i) 意味による副詞の分類

- ① 時 (When?) — now, today, soon
- ② 場所 (Where?) — here, there, down
- ③ 様態 (How?) — well, so, quickly
- ④ 頻度 (How often?) — often, sometimes, rarely
- ⑤ 程度 (To what extent?) — much, enough, almost
- ⑥ 肯定・否定 — yes, not, hardly
- ⑦ その他 — otherwise, nevertheless (接続副詞)

## ii) 副詞とその位置

- **時・場所・様態の基本位置:** 原則として**文尾**に置かれます。
- **並べる順序:** **[様態] → [場所] → [時]** の順が原則です。
- **頻度の副詞:** 一般動詞の前, be動詞・助動詞の後に置かれます。

## iii) 文修飾副詞

文全体を修飾し, 話し手の認識や評価を付加します。

例: Certainly, surprisingly, fortunately

書き換えイメージ:

*Surprisingly, he won.* ⇔ *It is surprising that he won.*

## iv) 注意すべき用法 (副詞的目的格)

名詞が前置詞なしに副詞の働きをする場合があります。

- this week, next year, every morning (時)
- three miles (距離)

[↑ 目次に戻る](#)